

CARAMBA!

いま見なければ——生涯見られません。

“40億分の1の偶然”が

あなたを直撃する!

隠された《真実》の瞬間を追って
世界のケ国、200余名の特派カメラマンが捉えた未曾有の映像



残酷を超えた驚愕ドキュメント

CARAMBA



あつ腕が!

① 人類が初めて遭遇する未曾有の映像!

この高度に発達した情報化社会にあっても、地球上にはどんな想像も寄せつけない、かつていかなる映像も捉えることのできなかった恐るべき瞬間があった。その知られざる現実を追った今世紀最新最大の映像——それが「残酷を超えた驚愕ドキュメント ■カランバ」だ。新聞やテレビでは報道できない人間の蛮行の数々をはじめ殺戮、奇習、肉体が一瞬にして肉塊と化す死へのアドベンチャーなど……。いずれも非公開、極秘の「決定的瞬間」を次々に暴いて、まさに現代を鋭くえぐった映像の凶器が生まれた。

② 斬新! 隠された《真実》を暴いた恐るべきフィルムの数々!

『私は単なる威かしや文明批判がしたいのではない。この映像は知られざる「現実」のみを直視しており、私の狙いはこの「現実」をありのままに伝えることだ。』いまや全ヨーロッパの社会問題にまで発展した騒然たる事態の中で、プロデューサーは異例ともいえる声明を発表した。その熱意を裏付けるように精鋭200余名の特派カメラマンを編成、3年もの年月にわたり世界63ヶ国、実に地球2周分に迫る79,000キロを踏破。34万メートル、204時間にも及ぶ貴重な撃写フィルムを93分に凝縮し、これまでにない新しいドキュメントを完成させた。

いま見なければ、生涯見られない。

「これが問題の瞬間だ!」

そのとき、カメラマンは目をそむけて撮った!

③ 全世界が騒然と揺れる中——イタリアで驚異の大ヒット!

「むごい! 見てられない!」「いや、これこそ貴重な報道フィルムだ!」——これまでの常識をブチ破る衝撃に、いま全世界が賛否両論に渦巻いている。アメリカや西ドイツでは公開を前に強力な上映反対運動が、またスペインでは試写会の観客に失神者が続出したため、現在公開の見通しが立たないありさまだ。しかし1983年9月に世界で唯一の公開をみたイタリアでは、わずか2週間で興行収入116万ドル突破という驚くべき大ヒットを記録。その一方ではローマで最高一日に17回、延べ47回も救急車が出動する異常事態となった。残酷映画の本場イタリア映画界にとって、これはまさしく歴史的事件だったのだ。

④ これが93分に叩き込まれた衝撃の瞬間だ!

1982年11月16日、中東戦線。ゲリラ兵の男がスクールバスを爆破したという罪状で、ジープによる引き裂き刑で腕をもがれ、さらに大勢の銃の標的となった。そして史上はじめてカメラが捉えたショッキングな「鳥葬」——チベット奥地では、死者の両腕両足を切り刻み、内臓をひきずり出して、最後に首を切断してハゲタカに食べさせる。そのほか、地上実に60mの綱渡りに失敗してアスファルトに叩きつけられる瞬間や血みどろの「石投げ集団錯乱」など、非情なまでの「現実」。これこそ人間であることを呪わずにはいられない、恐るべき世紀の一大スクープの連続だ。

残酷を超えた驚愕ドキュメント

カランバ



84年新春《第2弾》震撼のロードショー 伊勢丹前シネ・タウン 新宿文化シネマ1 (354) 2097